

## 安全な水の現状と私たちにできること

川崎市立白鳥中学校

一年 原口 權

水は皆さんにとってどんな存在ですか？ 人によって答えは違うと思いますが、僕にとって水は生きていく上で絶対に必要な存在だと思います。なぜなら人間は水が無ければ生きていけないからです。人体の構造と機能に関する書籍によると、年齢によって体内の中にある水の割合は異なりますが、最低でも50%必要とされています。つまり、人間が生きていく上では、安全な水を飲み、その割合を維持していかなくてはならないのです。水が人間にとって重要な存在であり、大切にしていかななくてはいけないものであると学びました。しかし、世界に目を向けてみると、深刻な水不足になっている地域が数え切れないほどあります。例えば、安全に管理された飲み水を飲むことができない人は、世界人口のうち約38%

おり、そのうち約一億四千万人の人々は、安全に管理された水ではなく、汚染された湖や川の水をそのまま飲んでいきます。その水を飲んだことで、私たちが人間に悪影響が及び、様々な病気を引き起こします。昨今の新型コロナウイルス感染症の影響もあり、安全な水がより貴重になっています。世界では、汚れた水を飲み、コレラ菌や細菌性赤痢などの感染症にかかり、一日あたり八百人の子どもたちが影響を受け、年間約三十万人の子どもたちが亡くなっている現状があります。

では、このような現状を改善するために、私たちは、どのような取り組みをしていけば良いのでしょうか。現在、世界全体での大きな取り組みとして「持続可能な開発目標」があり、その中の一つに「安全な水とトイレを世界中に」があります。具体的な目標は、衛生的な環境と水とトイレを世界中に届けるとしていますが、全世界における達成度は低く、二〇三〇年までに達成不可能だとされています。さらに、今この瞬間にも、安全な水を確保することができず、苦しんでいる子どもたちがたくさんいます。そんな子どもたちのために、私たちができることはないのでしょうか。私は、次の二つの取り組みがで

きると考えます。一つ目は、安全な水が子どもたちに届くように、募金活動をする事です。私たちが、三千元を募金することで、感染症を引き起こしていた汚れた水を安全な飲み水にすることができ、浄水剤約七千錠分に変えることができます。約三万五千リットル相当の安全な水を寄付することと同じことになります。このように募金活動を通して、多くの命を助けることに繋がるのではないかと考えます。募金活動は様々な場所で行われている、実際に私の学校でも、募金活動を行っています。今後、私は学校で水の大切さを伝え、募金活動に取り組んでいきたいと思えます。二つ目は、日本の水処理技術を世界に提供することです。世界中でも、日本の水処理技術は、発展しています。例えば、海水を飲み水として淡水に精製する「海水淡水化技術」、微生物・藻・小動物など自然界の仕組みを上手に活用した「生物浄化技術」等は、日本が誇る水処理技術です。現在、これらの技術を活用した装置は、中東やアフリカ等の安全な水を確保することができない地域で一部使用されていますが、全ての地域に提供されているわけではありません。今後、私は水処理技術に関する知識を深め、さらに簡単に効率

的に安全な水を確保できる技術を開発できるように研究に取り組んでいきたいと強く思っています。

日本にいますと、水の大切さを感じることがありませんでした。しかし、世界に目を向けると安全な水がなく、苦しんでいる多くの子どもたちがいる現状がありました。だからこそ、私たちの明るい未来のために、水を無駄遣いしない、募金活動を主体的に計画・実施していく、水の大切さを身近な人に伝えていくなど自分ができる小さなことから積極的に取り組んでいきたいと思えます。